



# 2021年度 第3四半期決算 *Conference Call*

2022年1月31日  
塩野義製薬株式会社



1. 2021年度 第3四半期決算の概要 (P.4-7)
2. 第3四半期の成果と今後の成長に向けた取り組み (P.9-21)
  - 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連事業
  - その他の事業の進捗

# 1. 第3四半期決算の概要

# 連結経営成績



(単位：億円)

	通期 修正予想 (11/1)	21年度		20年度		対前年同期	
		4-12月 実績	対通期 進捗率	4-12月 実績	UP率	増減額	
売上収益	2,940	<b>2,196</b>	<b>74.7%</b>	2,244	△2.1%	△48	
営業利益	900	<b>604</b>	<b>67.1%</b>	1,052	△42.5%	△447	
コア営業利益*	900	<b>619</b>	<b>68.8%</b>	800	△22.6%	△181	
税引前四半期利益	1,150	<b>748</b>	<b>65.0%</b>	1,198	△37.6%	△450	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,000	<b>710</b>	<b>71.0%</b>	890	△20.3%	△180	

- ・ 売上収益および各利益項目は、通期予想に対して順調に進捗
- ・ COVID-19関連プロジェクトへの集中投資を継続
  - 研究開発費：国と調整中の助成金部分も含めて一旦計上  
(対通期予想進捗率 86.9%、対前年同期 90億円増)
  - 対前年同期比較での主な減益要因は、シオノギ渋谷ビルの交換益  
(△229億円、前年度3Qに計上)

為替レート (期中平均)	2021年度前提 (11/1)	2021年度 4-12月実績
ドル	110円	<b>111.14円</b>
ポンド	150円	<b>152.76円</b>
ユーロ	130円	<b>130.60円</b>

# 連結損益計算書



	21年度		20年度		対前年同期	
	通期 修正予想 (11/1)	4-12月 実績	対通期 進捗率	4-12月 実績	UP率	増減額
売上収益	2,940	<b>2,196</b>	<b>74.7%</b>	2,244	△2.1%	△48
売上原価	19.4 570	<b>18.1</b> <b>399</b>	<b>69.9%</b>	16.0 359	<b>10.9%</b>	<b>39</b>
売上総利益	2,370	<b>1,798</b>	<b>75.9%</b>	1,885	△4.6%	△87
販売費・一般管理費	30.3 890	<b>31.4</b> <b>690</b>	<b>77.6%</b>	30.6 686	<b>0.6%</b>	<b>4</b>
研究開発費	18.9 555	<b>22.0</b> <b>482</b>	<b>86.9%</b>	17.5 392	<b>22.9%</b>	<b>90</b>
その他の収益・費用	△25	△21	<b>84.4%</b>	246	△108.6%	△267
営業利益	30.6 900	<b>27.5</b> <b>604</b>	<b>67.1%</b>	46.9 1,052	△42.5%	△447
コア営業利益*	30.6 900	<b>28.2</b> <b>619</b>	<b>68.8%</b>	35.6 800	△22.6%	△181
金融収益・費用	250	<b>144</b>	<b>57.4%</b>	146	△1.8%	△3
税引前四半期利益	39.1 1,150	<b>34.1</b> <b>748</b>	<b>65.0%</b>	53.4 1,198	△37.6%	△450
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,000	<b>710</b>	<b>71.0%</b>	890	△20.3%	△180

(単位：億円)

主な増減要因（対前年同期）  
※当四半期の特記すべき増減要因

## 売上収益

- 増加：海外子会社/輸出、製造受託
- 減少：ロイヤリティー収入（クレストール®）

## 売上原価

- 増加：ロイヤリティー収入を除く売上収益の増加（約77億円）
- ：海外事業、製造受託の伸長に伴うプロダクト・ミックス

## 販売費・一般管理費

- 増加：欧米でのセフィデロコルの上市・販売活動費用
- 減少：効率化による国内の販売費・一般管理費

## 研究開発費

- 増加：COVID-19関連の研究開発活動に集中投資※
- ⇒ 国と調整中の助成金部分も含めて一旦計上

## その他の収益・費用

- 収益減少：シオノギ渋谷ビルの交換益を前年度3Qに認識（+229億円）※

# 事業別売上収益



(単位：億円)

	21年度			20年度		対前年同期	
	通期 修正予想 (11/1)	4-12月 実績	対通期 進捗率	4-12月 実績	UP率	増減額	
国内医療用医薬品	944	<b>695</b>	<b>73.7%</b>	718	△3.2%	△23	
海外子会社/輸出	350	<b>262</b>	<b>74.8%</b>	175	<b>49.7%</b>	<b>87</b>	
シオノギ Inc.	127	<b>111</b>	<b>87.6%</b>	54	<b>106.2%</b>	<b>57</b>	
Fetroja®	-	<b>47</b>	-	9	<b>425.1%</b>	<b>38</b>	
平安塩野義*/C&O	123	<b>72</b>	<b>58.5%</b>	69	<b>3.8%</b>	<b>3</b>	
シオノギB.V. (欧州)	50	<b>38</b>	<b>76.7%</b>	13	<b>195.7%</b>	<b>25</b>	
製造受託	178	<b>118</b>	<b>66.3%</b>	103	<b>15.3%</b>	<b>16</b>	
一般用医薬品	134	<b>84</b>	<b>62.5%</b>	88	△4.5%	△4	
ロイヤリティー収入	1,320	<b>1,024</b>	<b>77.6%</b>	1,148	△10.8%	△125	
HIVフランチャイズ	1,252	<b>962</b>	<b>76.8%</b>	951	<b>1.2%</b>	<b>11</b>	
クレストール®	0	<b>12</b>	-	166	△93.1%	△154	
その他	67	<b>50</b>	<b>74.8%</b>	32	<b>57.3%</b>	<b>18</b>	
その他	14	<b>13</b>	<b>93.3%</b>	12	<b>8.7%</b>	<b>1</b>	
合計	2,940	<b>2,196</b>	<b>74.7%</b>	2,244	△2.1%	△48	

## 主な増減要因 (対前年同期)

- 国内医療用医薬品**
  - 減少：サインバルタ®の売上
- 海外子会社/輸出**
  - 米国：増加：セフィデロコル (Fetroja®) の売上  
FORTAMET®販売権等の移管に関する一時金を受領
  - 欧州：増加：セフィデロコル (Fetroja®) の売上
- 製造受託**
  - 増加：ナガセ医薬品の連結子会社化\*\*、ドルテグラビル原薬の受託増加
- 一般用医薬品**
  - 減少：イソジン®の売上
- ロイヤリティー収入**
  - HIVフランチャイズ：増加：Dovatoの売上
  - クレストール®：減少：契約に基づくクレストール®の収入
  - その他：増加：S-365598の導出に関するViiV社とのライセンス契約締結

\* 一般用医薬品も同合併会社の収益に含む

\*\* 前年度3Qより連結子会社化

# 第3四半期までの成果と通期予想の見通し



## 第3四半期までの成果

- **売上収益および各利益項目は、通期予想に対して順調に進捗**
  - 国内、海外事業、ロイヤリティー収入が順調に推移
  - **集中投資によるCOVID-19関連プロジェクトの加速と進展**
  - COVID-19関連の研究開発費については、**国と調整中の助成金部分も含めて一旦計上**
  - 当初/修正予想には、未確定のコロナ関連の売上収益および研究開発費は含まず

## 通期予想達成に向けて

- **4QもCOVID-19関連プロジェクトへの集中投資を継続**
- 生産性向上による販売・管理費の削減
- **新たな事業機会による業績貢献**
  - COVID-19治療薬・ワクチンの提供
  - パートナリング契約の締結、等

**COVID-19の早期終息に必要な資源を集中投下しながら、  
新たな事業機会の実現により「通期予想を達成」し、「増収増益」を目指す**

## 2. 第3四半期の成果と今後の成長に向けた取り組み



## 経口治療薬（S-217622）の開発

- 非臨床薬効：オミクロン株に対する活性

VeroE6T細胞用いたin vitro評価

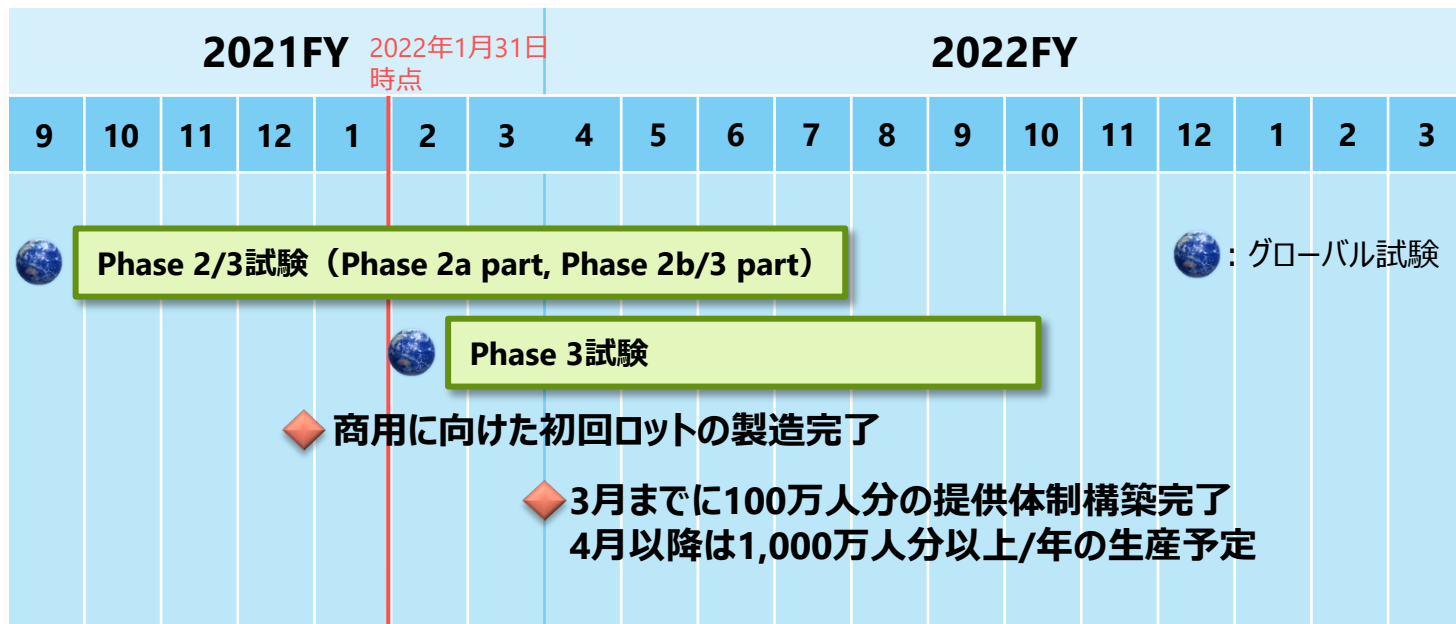
ウイルス株	EC <sub>50</sub> (μM)	主要変異部位	
		Sタンパク質	3CL-protease
武漢株	0.37	-	-
α株 (QHN001/QHN002/QK002)	0.31/0.46/0.33	N501Y, D614G	-
β株 (TY8-612)	0.40	K417N, E484K, N501Y, D614G	K90R*
γ株 (TY7-501/TY7-503)	0.50/0.43	K417T, E484K, N501Y, D614G	-
δ株 (TY11-927-P1)	0.41	L452R, T478K, D614G	-
ο株 (TY38-873)	0.29	K417N, K440K, G446S, S477N, T478K, E484A, Q493K, G496S, Q498R, N501Y, Y505H	P132H

社会的に問題となっているオミクロン株を含め、幅広い株に対して活性を示す

# COVID-19に対する取り組み：S-217622



## 経口治療薬（S-217622）の開発



# COVID-19に対する取り組み：S-217622

- Phase 2a part (Phase 2/3試験) -



## 経口治療薬 (S-217622) の開発

### Phase 2a part試験概要

#### 目的

- 軽症/中等症および無症候のSARS-CoV-2感染者にS-217622を5日間反復投与したときの抗ウイルス効果の検討

#### 抗ウイルス効果の測定

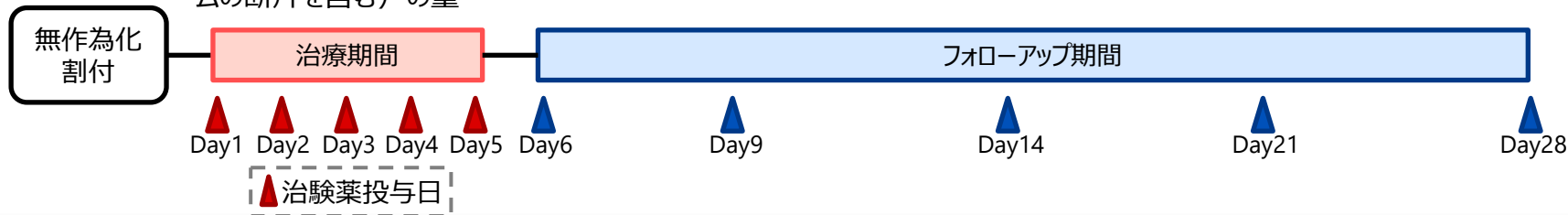
##### ウイルスカ価

= 検体中に含まれる感染力のあるウイルス（生存ウイルス）の量

##### ウイルスRNA量

= 検体中に含まれるウイルスRNA（死滅ウイルスゲノムの断片を含む）の量

対象患者	軽症/中等症および無症候のSARS-CoV-2感染者
試験デザイン	二重盲検、多施設共同、プラセボ対照、並行群間比較試験
評価項目	有効性、安全性
主要評価項目	各時点におけるSARS-CoV-2のウイルスカ価のベースラインからの変化量
副次評価項目	• 各時点におけるSARS-CoV-2のウイルスRNA量のベースラインからの変化量 • 各時点におけるSARS-CoV-2のウイルスカ価陽性率 • 各時点におけるCOVID-19症状の合計スコアのベースラインからの変化量、など
対象年齢	12歳以上70歳未満



# COVID-19に対する取り組み：S-217622

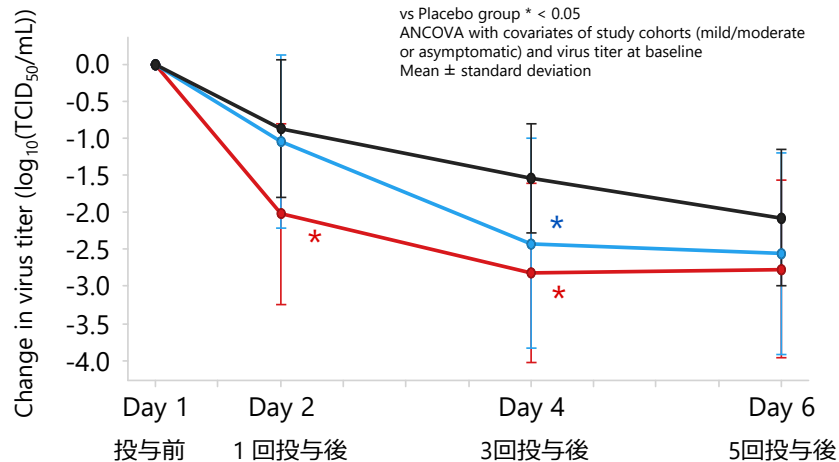
## - Phase 2a part (Phase 2/3試験) -



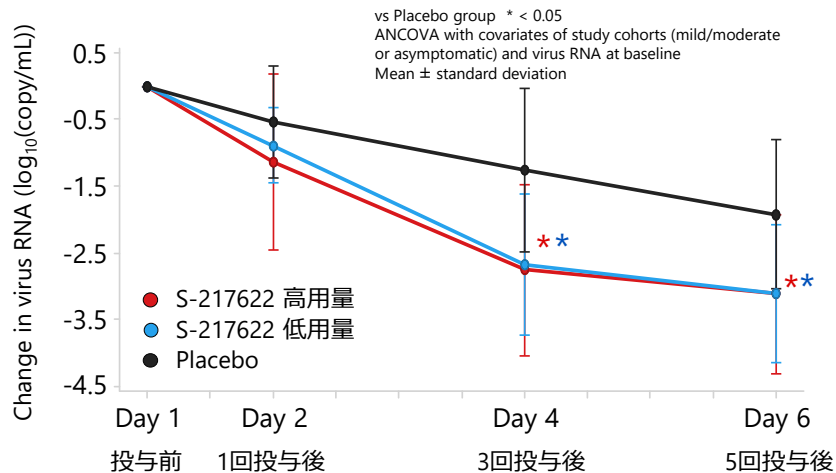
### 経口治療薬 (S-217622) の開発

#### 抗ウイルス効果

#### ウイルスカ価のベースラインからの変化量



#### ウイルスRNA量のベースラインからの変化量



プラセボ群に対して速やかなウイルスカ価およびウイルスRNA量の減少を確認

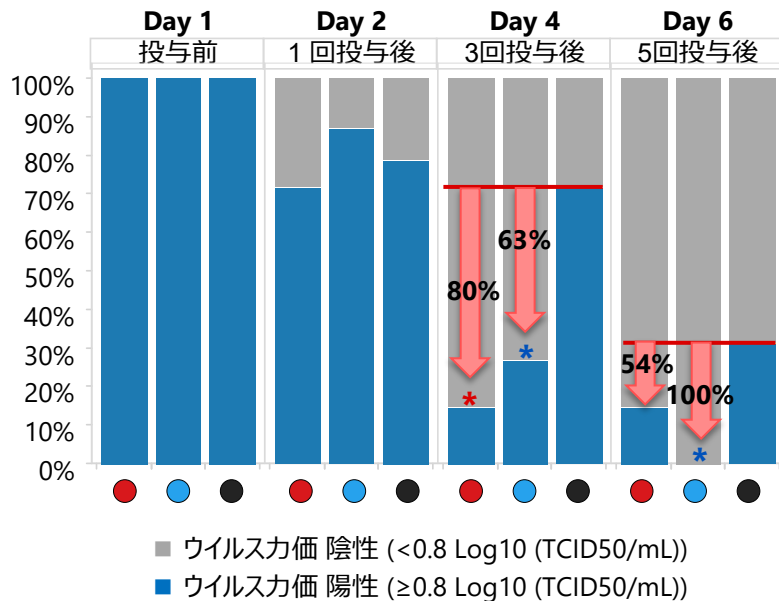
# COVID-19に対する取り組み：S-217622

## - Phase 2a part (Phase 2/3試験) -



### 経口治療薬 (S-217622) の開発

- ウイルスカ価の陽性患者\*\*の割合



vs Placebo group \* < 0.05  
Mantel-Haenszel test stratified by study cohorts (mild/moderate or asymptomatic)

- S-217622 高用量
- S-217622 低用量
- Placebo

- プラセボ群と比較して実薬投与群でウイルスカ価が陽性の患者割合が減少

本治療薬を服薬後、感染性を有するウイルスを排出する患者を速やかに減少させる

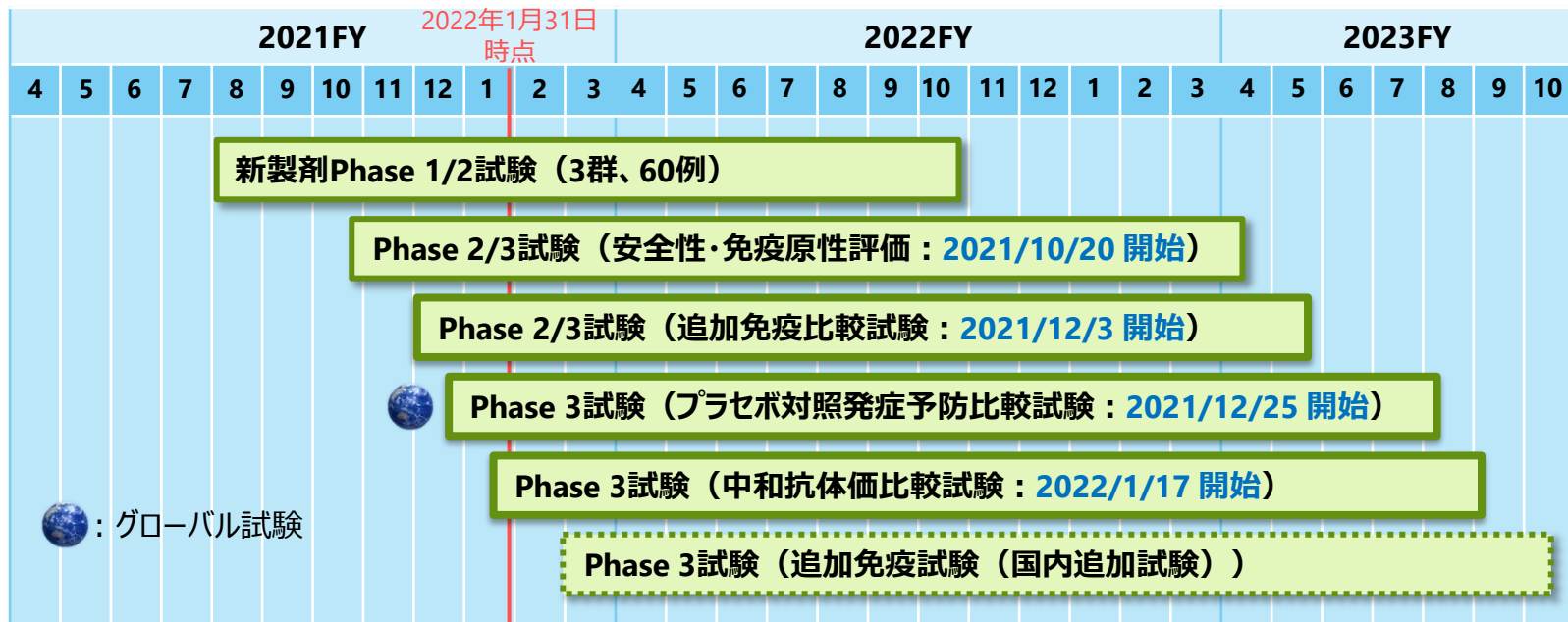
## 経口治療薬（S-217622）の開発

- **Phase 2/3試験**
  - Phase 2a partの解析を実施
    - > 速やかな抗ウイルス効果を確認
    - > 忍容性を確認するとともに、重篤な有害事象なし
  - Phase 2b/3 part実施中
    - > 2022年1月以降の症例登録は順調に進捗
    - > 症例登録の加速に向け、海外施設の立ち上げ完了（韓国にて登録開始）
- **グローバルPhase 3試験**
  - 試験開始に向けてFDAおよびEMAと協議中
- **商用生産**
  - 2021年12月に商用に向けた初回ロットの製造完了
- **パートナーリング**
  - 引き続き候補企業と協議中

**申請に必要な資料は当局に随時提出しており、最速の国内提供を目指す**

## 遺伝子組換えタンパクワクチン（S-268019）の開発

### 最終段階の4つの臨床試験を実施中



## 遺伝子組換えタンパクワクチン（S-268019）の開発

### 最終段階の4つの臨床試験を実施中

- **Phase 2/3試験**
  - 全被験者の2回目接種完了
  - Day57の観察を完了、安全性の大きな懸念は見られず
  - 中和抗体価を含む中間成績の速報は2022年4月の感染症学会で発表予定
- **追加免疫比較試験**
  - コミナティ筋注2回接種後の追加免疫によるコミナティ筋注との非劣性検証
  - 全被験者の3回目接種およびDay29の観察を完了、安全性の大きな懸念は見られず
  - 速報の発表は3月初旬を予定
- **中和抗体価比較試験**
  - バキスゼブリア筋注に対する優越性検証
  - 全被験者の1回目接種完了
- **プラセボ対照発症予防比較試験**
  - 2021年12月よりベトナムで先行開始
  - 症例登録は順調に進捗

**各試験は順調に進捗中**  
**2月から事前評価相談を開始し、早期実用化を目指す**



# R&Dの推進：注カ8プロジェクト



	パイプライン	適応症	現状
感染症	S-540956	感染症、がん	Phase 1試験準備中
精神/ 神経	S-600918 [sivopixant]	①難治性慢性咳嗽 ②睡眠時無呼吸症候群	①Phase 3試験準備中、②開発中止
	S-637880	神経障害性腰痛	Phase 2a試験実施中
	S-812217 [zuranolone]	うつ病・うつ状態	Phase 3試験実施中
	BPN14770 [zatolmilast]	①アルツハイマー型認知症 ②脆弱X症候群	①Phase 2試験実施中 ②Phase 2b試験実施中およびPhase 2b/3試験準備中
	S-874713	各種精神疾患	Phase 1試験準備中
新たな 成長 領域	S-531011	固形がん	Phase 1b/2実施中
	S-005151 [レダセムチド]	①栄養障害型表皮水疱症 ②急性期脳梗塞 ③変形性膝関節症 ④慢性肝疾患 ⑤心筋症	①追加試験準備中、②Phase 3試験準備中 ③④医師主導治験（Phase 2試験）実施中 ⑤医師主導治験準備中

COVID-19関連プロジェクトと並行し、注カ8プロジェクトも順調に進捗

## 中長期的な成長に向けた製品群が順調に進展

### Zuranolone

-うつ病治療の既成概念を変える有効性-

- **国内Phase 3試験を実施中**
  - 国内Phase 2試験、海外Phase 3試験の良好な結果を受け、即効性を活かした急性期治療薬として開発
    - > 既存抗うつ薬と差別化できる新たなポジショニング
- **海外（Sage社/Biogen社）開発も順調に進捗**
  - **FDAへの新薬承認申請準備中**
    - > 2022年前半：ローリングサブミッション開始予定

### レダセムチド

-再生医療のパラダイムを変える-

- **急性期脳梗塞**
  - **グローバルPhase 3試験準備中**
    - > **Phase 2試験で主要評価項目\*を達成**
    - > 血管再開通療法\*\*の実施率は世界各国で低く、アンメットニーズは大きい
- **栄養障害型表皮水疱症**：追加臨床試験準備中
- **変形性膝関節症**：医師主導Phase 2試験症例集積完了
- **慢性肝疾患**：医師主導Phase 2試験症例集積中
- **心筋症**：医師主導治験準備中

## 不眠障害治療用アプリの導入（サスメド社）

- 不眠障害市場の規模は拡大傾向

- 患者数推計：約2,200万人\*2
- 確定診断患者数：約1,000万人\*3

- Phase 3試験結果

- 主要評価項目であるアテネ評価尺度\*4の有意な改善
- **本試験結果をもとに、国内初の不眠障害治療用アプリとして薬事申請予定（2022年2月）**

- 従来の不眠障害治療の特徴と治療用アプリへの期待

	メリット	デメリット
薬物療法	- 早期の改善効果	- 単独では十分に満足できる長期予後とアドヒアランスが得られない可能性
認知行動療法	- 治療実施後も効果が継続 - 副作用が少ない	- 実施可能な専門スタッフが不足 - 実施に長時間を要し、医療機関への負荷が大きい

### アプリによる認知行動療法

- ① 対面での認知行動療法の課題を克服し、患者アクセスが容易
- ② 日々のデータを取得し、医師の診療に反映
- ③ 単独および薬物療法との併用の可能性

## 国内事業

- **ADHDファミリー**
  - インチュニブ®の成人領域拡大に向けた取り組みを継続
- **インフルエンザファミリー**
  - インフルエンザファミリーの活動は流行状況に応じて柔軟に対応

## 欧米事業

- **セフィデロコル**
  - 欧米での価値最大化に向けた取り組みを継続
  - 低中所得国におけるアクセスの向上を推進

## 中国事業

- **平安塩野義**
  - オンライン医療プラットフォームを含む新規販路での売上の拡大
  - 新薬の早期上市に向けた活動の推進
  - AI技術を活用した研究アプローチの拡充

**通期予想の達成に向け、  
地域に応じた最適なトップライン戦略の実行を加速**

## 米国での予防/新たな治療オプションによるcabotegravirの価値最大化

Cabotegravir : 予防

### Apretude (cabotegravir)

- 予防適応承認取得 -

- **世界初の長時間作用型注射剤（2か月に1回）**
  - 予防のための毎日の服薬からの解放
- **予防市場のパラダイムシフト**
  - 既存薬FTC/TDF\*に対する高い予防効果
  - 高い利便性と忍容性によるアドヒアランス向上
    - > 米国政府は2025年までに新規感染数75%削減目標

Cabotegravir : 治療

### CABENUVA (CAB/RPV\*\*)

- より利便性が高まる新たな投与オプション -

- **2か月に1回投与の治療薬**
  - 治療継続負担を軽減する新たな選択肢
- **選べる導入方法（直接注射または経口導入）**
  - 導入時の煩雑さの解消

※いずれも2022年中に米国承認予定  
欧州では既に承認済

予防適応と利便性が向上する治療オプションを追い風に、  
cabotegravirの市場浸透を加速

# Appendix

# 連結経営成績

-シオノギ渋谷ビル再開発に伴う区分所有持分の交換益（229億円）を除く-



(単位：億円)

	通期 修正予想 (11/1)	21年度		20年度	対前年同期	
		4-12月 実績	対通期 進捗率	4-12月 実績	UP率	増減額
売上収益	2,940	<b>2,196</b>	<b>74.7%</b>	2,244	△2.1%	△48
営業利益	900	<b>604</b>	<b>67.1%</b>	822	△26.5%	△218
コア営業利益*	900	<b>619</b>	<b>68.8%</b>	800	△22.6%	△181
税引前四半期利益	1,150	<b>748</b>	<b>65.0%</b>	969	△22.8%	△221
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,000	<b>710</b>	<b>71.0%</b>	731	△2.9%	△21

# 国内医療用医薬品売上収益



(単位：億円)

	通期 修正予想 (11/1)	21年度		20年度		対前年同期	
		4-12月実績	対通期進捗率	4-12月実績	UP率	増減額	
サインバルタ®	171	141	82.6%	205	△31.0%	△63	
インチュニブ®	166	121	73.0%	96	26.8%	26	
ビバンセ®	10	6	53.7%	2	228.9%	4	
感染症薬	166	88	52.7%	76	15.2%	12	
インフルエンザファミリー	79	20	25.4%	2	718.8%	18	
オキシコンチン®類	50	38	75.5%	41	△7.5%	△3	
スインプロイク®	31	20	64.5%	17	20.8%	3	
アシテア®	4	4	95.8%	2	53.6%	1	
ムルプレタ®	1	1	75.1%	1	11.3%	0	
ピレスパ®	35	31	88.0%	40	△23.6%	△9	
その他	308	246	79.8%	239	2.9%	7	
クレストール®	57	47	82.0%	51	△8.2%	△4	
イルバタン®類	31	24	78.5%	26	△5.8%	△1	
<b>国内医療用医薬品</b>	<b>944</b>	<b>695</b>	<b>73.7%</b>	<b>718</b>	<b>△3.2%</b>	<b>△23</b>	

<感染症薬構成製品>

- ・ ゾフルーザ®
- ・ ラピアクタ®
- ・ ブライトポック® Flu・Neo

- ・ フィニバックス®
- ・ フルマリン®
- ・ プロモックス®

- ・ シオマリン®
- ・ バンコマイシン
- ・ バクタ®

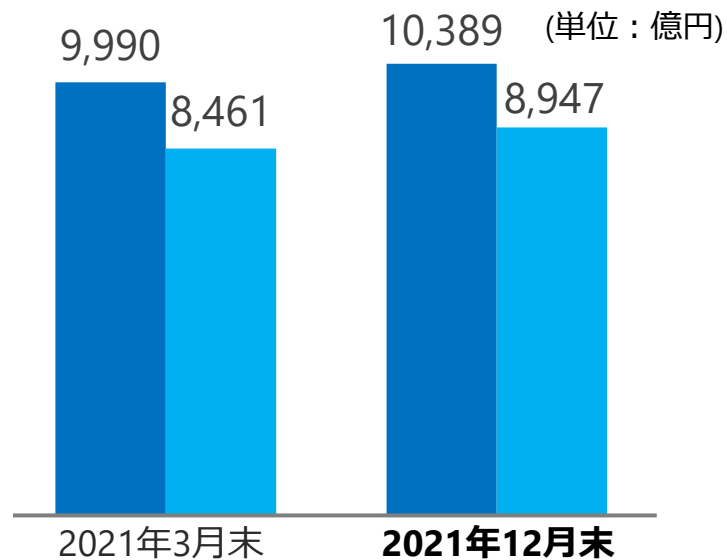
- ・ フラジール®
- ・ イソジン®



# 財政状態（連結、IFRS）



■ 資産 ■ 親会社の所有者に帰属する持分



	2021年 3月末	2021年 12月末
親会社所有者 帰属持分比率	84.7%	86.1%

単位：億円		2021年 3月末	2021年 12月末	増減額
資産	非流動資産	4,428	4,522	95
	流動資産	5,562	5,867	304
親会社の所有者に 帰属する持分		8,461	8,947	486
負債	非流動負債	343	321	△22
	流動負債	1,002	945	△57

# 開発パイプラインの状況\_感染症



2022年1月31日現在



**S-872600**  
インフルエンザ予防ワクチン

**S-880008** Up  
COVID-19の治療 (ペプチド)

**S-268019** Up  
COVID-19の予防ワクチン

**S-268019** Up  
COVID-19の予防ワクチン

**S-217622\***  
COVID-19の治療

**セフィデロコル**  
好気性グラム陰性菌感染症 (小児)

**ゾフルーザ®**  
インフルエンザウイルス感染症 (顆粒剤、20kg未満)

: グローバル開発

\* Phase 2b/3実施中

## アウトライセンス

**S-365598**  
HIV感染症

**S-555739 [asapiprant]**  
COVID-19の重症化抑制

**cabotegravir**  
HIV感染予防 持続性注射製剤

**Xofluza® (米国)**  
インフルエンザウイルス感染症 (小児、1歳以上)

**Xofluza®**  
インフルエンザウイルス感染症 (小児、1歳未満)

**Xofluza®**  
インフルエンザウイルス感染症 (伝播抑制)

ステージ変更 (2021年11月1日からの変更点)

S-268019 (COVID-19の予防ワクチン) : Phase3開始 (国内、グローバル)  
S-880008 (COVID-19の治療 ペプチド) : 非臨床

# 開発パイプラインの状況\_精神・神経



2022年1月31日現在



非臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3
S-874713 各種精神疾患	S-600918 [sivopixant] 神経障害性疼痛	S-600918 [sivopixant] 難治性・原因不明慢性咳嗽	S-812217 [zuranolone] うつ病・うつ状態
S-109802 脳卒中後上肢・下肢痙縮	S-010887 神経障害性疼痛	BPN14770 [zatolmilast] アルツハイマー型認知症	
	S-120083 炎症性疼痛	S-637880 神経障害性腰痛	
	S-117957 不眠症	SDT-001 ADHD患者の不注症状 (小児)	
		BPN14770 [zatolmilast] アルツハイマー型認知症	
		BPN14770 [zatolmilast] 脆弱X症候群	
		Rizmoic* オピオイド誘発性便秘症 (小児)	
		S-120083 炎症性疼痛	

\* Phase1/2実施中

**アウトライセンス**

S-0373  
[ロバチレリン]  
脊髄小脳変性症

Up

: グローバル開発

ステージ変更 (2021年11月1日からの変更点)

S-812217 (うつ病・うつ状態) : Phase3開始 (国内)

S-600918 (睡眠時無呼吸症候群) : 開発中止

S-872881 (アルツハイマー型認知症) : 開発中止

S-0373 (脊髄小脳変性症) : 申請

# 開発パイプラインの状況\_新たな成長領域



2022年1月31日現在



非臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	申請
S-540956 核酸アジュバント	S-770108 特発性肺線維症	S-237648 肥満症	S-005151 [レダセムチド] 急性期脳梗塞	S-588410 食道がん
S-309309 肥満症	S-723595 NASH	S-588410 膀胱がん	S-005151 [レダセムチド] 栄養障害型表皮水疱症	SR-0379 皮膚潰瘍
	S-588210 固形がん	ADR-001* 非代償性肝硬変	S-488210 頭頸部がん	
	S-309309 肥満症	* Phase 1/2 実施中	S-588410 膀胱がん	
			S-222611 [epertinib] 悪性腫瘍	
			S-531011** 固形がん	** Phase 1b/2 実施中

: グローバル開発

## • 11月

- 新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策に関するベトナム政府との基本合意書の締結
- 新型コロナウイルス抗原検査キット製品に関する株式会社タウンズとの共同販売契約の締結

## • 12月

- オピオイド誘発性便秘症治療薬「適秘効<sup>®</sup>（スインプロイク<sup>®</sup>）錠 0.2mg」の台湾における製造販売承認取得
- 新型コロナウイルスの下水疫学調査における変異解析サービスを開始
- CDPより「気候変動」「水セキュリティ」の分野でA- の評価を獲得

# 参考：ウイルスRNAのベースラインからの変化量（他社品）



		Molnupiravir Phase 2 <sup>*1</sup>		PAXLOVID HR Phase 3 <sup>*2</sup>		REGEN-COV HR Phase 3 <sup>*3</sup>	
		Molnupiravir 800 mg	Placebo	Nirmatrelvir 300 mg ritonavir 100 mg	Placebo	REGEN-COV 2,400 mg	Placebo
Day 3	N	51	56				
	Mean*	-1.050	-0.847				
	Diff* vs placebo	<b>-0.203</b>	---				
Day 5	N	52	57	211	240		
	Mean*	-1.867	-1.320	-2.69			
	Diff* vs placebo	<b>-0.547</b>	---	<b>-0.93</b>	---		
Day 7	N	49	56			1355	1341
	Mean*	-2.485	-1.952			-3.32	-2.47
	Diff* vs placebo	<b>-0.534</b>	---			<b>-0.86</b>	---

\* Least square mean

<sup>\*1</sup> Fischer W. et al. (2021). [Molnupiravir, an Oral Antiviral Treatment for COVID-19.](#)

<sup>\*2</sup> Analyst and Investor Call to Discuss the First COVID-19 Comprehensive Approach: Pfizer-BioNTech Vaccine and Pfizer's Novel Oral Antiviral Treatment Candidate

<sup>\*3</sup> Weinreich D. M. et al. (2021). [REGEN-COV Antibody Combination and Outcomes in Outpatients with Covid-19.](#)

# 将来の見通しに関する注意事項



- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。